

あ

柳 りゅう

くまのがわちようひたり  
熊野川町日足の対岸、楊枝村のはずれで、この辺りの領主が鷹狩りを行っていたのですが、鷹の足のヒモに柳の枝が引っかかり離れなくなりました。いらだった領主は「柳を切り倒してしまえ」と命令されました。その時、平季仲という武士が「私にお任せください」と願い出て、矢を放ちひもを切り離しました。

それからしばらくして、美しい乙女が、季仲の家の戸を叩きました。身の上話を聞くと、名はお柳といい、両親を亡くし頼る人もいないとのこと。季仲は、お柳にしばらく滞在するようすすめました。

やがてお柳は季仲の妻となり、二人の間には緑丸という子も生まれ、幸せな日々を過ごしていました。

鷹狩りの日から五年目の春、突然、京の都からの使者がこの村にやってきました。都で三十三間堂と呼ばれる大きな寺を建てており、その棟木にする大きな柳の木を切るための使者でした。明

くる日から柳の大木を切る作業が始まり、カーンカーンと斧の音が響き渡りました。

すると、季仲の家では、お柳が苦しみ始めたのです。季仲と緑丸がお柳を励ますが、一向に苦しみは治まらず、それどころが大変なことを告白するのです。「実は、私はあの大きな柳の木の精です。五年前危うく切り倒されそうになった時、季仲様の矢で命を助けていただきました。その恩返しに夫婦となり今まで過ごしてきましたが、あの柳の木に戻ってゆかなければなりません。ああ、別れとうない・・・。」そういう間にも、お柳の体は、まるで煙のように薄くなり、消えてしまいました。残された緑丸は泣き出し、季仲は魂を奪われたように立ちつくしていました。

やがて、柳の木は切り倒され、都に送られる日が来しました。柳の木は人々の勇ましい掛け声で進みましたが、季仲の家の前でピタリと止まり、一寸も動かなくなりました。

季仲は緑丸に晴衣装を着せ、柳の木にまたがせました。そして、季仲が軽く綱を引くと柳の大木はまるで嘘のようにスルスルと動き始めました。

人々がどよめく中、季仲と緑丸の目にあふれんばかりにたたえられた涙に気付いた人は誰もいませんでした。

参考 むかし紀の国物語 前木淳己編著 宇治書店

妖しの女性の物語



●楊枝薬師堂  
三十三間堂の棟木となった柳の大木の切り株の上に建てられたお堂で、柳の枝で彫った薬師仏が祀られている。また、お堂の前にはお柳の墓も建てられている。  
■三重県熊野市紀和町楊枝 416



●お柳の墓



●貝吹岩(貝持嶋)→  
棟木を出す合図の貝を吹いたといわれる岩。対岸で倒された柳の大木はここまで届いたという。  
■新宮市熊野川町日足地内

●国宝 三十三間堂  
平安後期、後白河上皇によって創建。本堂は国宝であり、世界一の長さの木造建造物である。  
■京都市東山区三十三間堂廻り町 657  
☎075-561-0467



提供：妙法院



「ウォータージェット船」

時速 40km で瀬峡を軽快に疾走し、断崖奇岩の絶景を楽しむことができる。

「めはり寿司」

高菜の漬物で巻いた大きい握り寿司。食べるときに自然と目が大きく見張ることが名前の由来。

- 瀬峡めぐりの里 熊野川
- 新宮市熊野川町日足 272
- ・瀬峡ウォータージェット船 熊野交通
- ☎0735-22-6220
- (土日・祝日は 0735-22-5101)
- ・お食事・お弁当・お土産 南海エフティサービス
- ☎0735-44-0326



寄り道すぽっと